

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	坂本 真士 (さかもと しんじ)	所属	日本大学 文理学部
連絡先 (電話・E-mail)	〒156-8550 世田谷区桜上水 3-25-40 日本大学文理学部 tel: 03-5317-9720 e-mail: jcb00146@nifty.com		
研究集会等名称	公益社団法人日本心理学会基礎と臨床をつなぐ研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください) 3回の集会合計で 会員 105 名 (うち認定心理士 12 名) 非会員 30 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>本研究会は、心理学の基礎と臨床の協働の可能性を追求するため、心理学の基礎領域と臨床領域の間の交流を促すべく、研修や勉強の場をつくることを目的とする。そのための活動として、日本心理学会第76回大会(2012年9月12日、於:専修大学)にて、「『心理学の基礎と臨床のインターフェイス』の学界的議論に向けて(1)」を開いて、心理学の基礎と臨床をつなぐあり方について議論した。また、日本心理臨床学会第31回秋季大会(2012年9月14日、於:愛知学院大学)にて、自主シンポジウム「基礎心理学の臨床的ふだん使いV」を開き、基礎心理学を臨床場面でどう活かすか議論した。いずれの学会大会においてもアンケートを配布し、参加者に意見を問うとともに、研究会新規参加者を募った。</p> <p>さらに、2013年2月23日にシンポジウム「『新型うつ』を巡る研究者と実践家の協力に向けて」を開いた(立正大学大崎キャンパス、15:00~18:00)。話題提供者として、松浦隆信氏(立正大学、臨床心理士)、佐久浩子氏(saku・la・saku 代表; キャリア・アドバイザー)、村中昌紀氏(日本大学大学院、臨床心理士)を迎え、「新型うつ」をめぐる研究と現場の実際について話をいただいた。また、指定討論者として、藤澤大介氏(独立行政法人国立がん研究センター、精神科医・日本認知療法学会幹事)を迎え、精神医学から見て、心理学研究は「新型うつ」についてどのように学術的および臨床的貢献が可能か意見を伺い、参加者全員で議論した。「新型うつ」については、今後とも臨床現場の人と情報交換をしながら、心理学研究に活かしていく予定であり、基礎と臨床の協働研究としてのモデルケースになることを意図している。</p> <p>その他、本研究会はメーリングリストを活用して、会員同士の情報交換を図った。</p>		